

都道府県・ 指定都市番号	27	都道府県・ 指定都市名	大阪	研究課題番号・校種名	3 (4) 中学校
				領域名	ESD
研究課題	学校全体で取り組む課題 (4) ESD を学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	おおさかふねやがわしりっだいいじゅうちゅうがっこう 大阪府寝屋川市立第十中学校 (398 人)				
所在地 (電話番号)	大阪府寝屋川市成田南町 20 番 7 号 (072-835-9296)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www2.city.neyagawa.osaka.jp/school/j/dai10/">http://www2.city.neyagawa.osaka.jp/school/j/dai10/</a>				
研究のキーワード	総合的な学習の時間 ESD カレンダー SDG s				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ESD カレンダー作成を通じた「総合的な学習の時間」を軸とする「各教科等」との関連の可視化</li> <li>○ 探究的な学びと生徒の主体的な活動 (SDG s 17 との関連)</li> <li>○ 「総合的な学習の時間」における 3 つの資質・能力の向上</li> </ul>				

## 1 研究主題等

## (1) 研究主題

ホールスクールアプローチで育む 自分を大切に ひとを大切に 未来を大切にできる生徒の育成
---

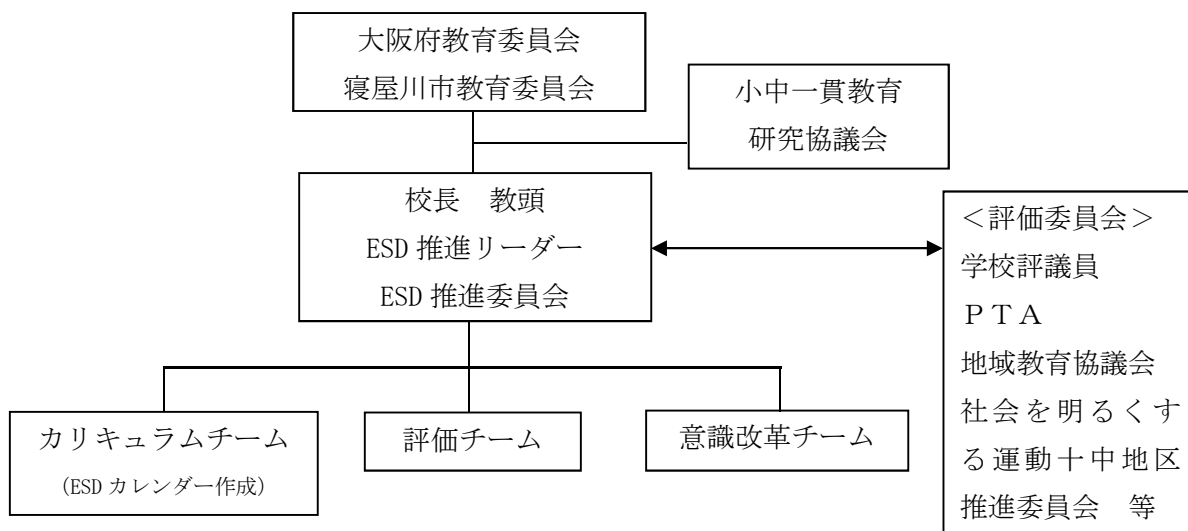
## (2) 研究主題設定の理由

これからの変化の激しい社会を生き抜くためにも, 生徒たちは, 知識及び技能を身に付け, 思考力, 表現力, 判断力を養い, 主体性をもって多様な人々と協働できる態度などを身に付けなければならない。

本校は, 校区の二つの小学校とともに 9 年間を見通した継続性・系統性・計画性のある小中一貫教育を進めている。校区には大規模な二つの団地群を有し, 地域の高齢化率も高くなっている。生徒たちは自分たちの住む地域を「住みやすい地域である」と感じながらも, 全国学力・学習状況調査における「地域や社会で起こっている問題に関心がある」という質問については 34%と、全国平均以下である。次代を担う地域の一員としての自覚を持ち, 視野を広げ, 仲間と協働した取組を進めることで, 地域に貢献し, 逞しく生きる生徒の育成を目指したい。

本校ではこれまで国際理解教育, 環境教育, 食育等, ESD の視点を生かした取組を進めてきており, 3 年間の系統性を生かしたものにしたいと考えている。ユネスコスクールとして, 地域や社会とも連携しながら, 学校全体で取組を進め, 様々な探究活動を通して, 「自分を大切にする心」や「他者と協働しながら進んで参画する態度」を身に付けることで, 地域や社会に貢献し, 将来にわたって持続可能な社会を生きぬく生徒の育成が可能であると考えます。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	4月	ESD の理解…教職員・生徒への広報活動 生徒への事前アンケート調査①	
	5月	ESD 研修会① (同志社女子大学 藤原孝章教授)	
	6月	ESD 研究授業 (国立教育政策研究所 遠山一郎調査官)	
	7月	生徒へのアンケート調査②	
	8月	ESD カレンダー作成	
	10月	三校合同研修会 (ESD 研修会② 奈良教育大学 中澤静男准教授) 地域と協働した ESD 活動 (小学生, 保護者・地域と協働した取組)	
	11月	ESD 研修会③ (同志社女子大学 藤原孝章教授) 学習発表会 (ESD をテーマにした各学年総合的な学習の時間, 生徒会の取組発表) 地域と協働した ESD 活動 (幼児・小学生・保護者・地域と協働した取組)	
	12月	先進校訪問 (太田区立大森第六中学校 大阪市立南小学校)	
	1月	中間のまとめ作成 生徒へのアンケート調査③	
	2月	小中三校授業交流会「ESD と道徳」 中間報告書づくり	
	3月	ESD 研究授業 (同志社女子大学 藤原孝章教授) 生徒へのアンケート調査④ 2年次年間計画作成 ESD 研修会④	
	平成30年度	4月	ESD 研修会⑤ (新年度に向けて) 生徒 (新1年) へのアンケート調査⑤
		5月	ESD 研修会⑥ (同志社女子大学 藤原孝章教授)
6月		保護者への ESD 発表	
7月		生徒へのアンケート調査⑥	
8月		ESD カレンダーの見直し・点検・実践のまとめ ESD カレンダーの再構築	
10月		地域と協働した取組 (小学生, 保護者・地域と協働した取組) 「Think the Earth」講演 研究冊子づくり	
11月		ESD 研究発表会 (ESD をテーマにした総合的な学習の時間)の中間発表 学習発表会 (ESD をテーマにした総合的な学習の時間, 生徒会活動の成果発表)	
12月		ESD 講演会 (フロムファーイースト株式会社代表取締役 阪口竜也氏) 生徒へのアンケート調査⑦ 最終のまとめ作成	

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### < 目指す生徒像 >

- ・身の回りの出来事を様々な側面や立場から考える事のできる生徒 (Care)
- ・仲間と協力することのできる生徒 (Communication)
- ・地域の一員として進んで参加できる生徒 (Action)

ESD への取組については、これまでの本校が実践してきた数々の教育活動を ESD として捉え直し、既存の取組を発展させることで実現できると考えた。そこで、本校が身に付けたい3つの能力・態度(多面的、総合的に考える力・他者と協力する態度・進んで参加する態度)に基づいた上記の目指す生徒像を掲げ、下記の3点の研究を進めることで研究主題に迫ると考えた。

- ①「総合的な学習の時間」を軸とした「各教科」との関連付けによるカリキュラムの再構築 (ESD カレンダーの作成)
- ② 探究的な学びと生徒の主体的な活動の実践 (SDGs17 との関連)
- ③「総合的な学習の時間」における3つの能力・態度の育成に照らした生徒の変容の把握

### (2) 具体的な研究活動

- ①「総合的な学習の時間」を軸とした「各教科」との関連付けによるカリキュラムの再構築 (ESD カレンダーの作成)

ESD カレンダー作成に当たっては、総合的な学習の時間を軸として、教科横断的にどのように系統立てて実践するかを把握できるよう、各教科及び領域の学習内容を8つのカテゴリーに分類し、総合的な学習の時間の学習内容と関連している単元を整理し、ESD の視点や身に付けさせたい3つの能力・態度に絡めた単元目標を作成した。カリキュラム・マネジメントの観点からも、学校全体の学習活動の全体像を可視化し、各教科・領域との関連性を明示することができた。

- ②探究的な学びと生徒の主体的な活動の実践 (SDGs17 との関連)

授業では多面的・総合的に考える力を育み、主体的・対話的で深い学びとなるよう意識した。今年度は「総合的な学習の時間」の単元として、1年「Neyagawa Action Plan～私たちだからできるSDGs～」、2年「地域の魅力を発信しよう2018」、3年「WASABI de ESD～わさびの魅力をアピールしよう～」と題し、SDGsを踏まえ、ESDの視点から教科との関連を意識した取組を進めた。1年では発表に対する助言者として地域の方々に講師をお願いし、2年では地域の事業所をPRする活動に取り組んだ。3年では市役所が開発した若者会議の手法を取り入れた授業実践を行うなど、官民含めた地域を巻き込んだ取組を心がけた。ESDの授業については、身に付けさせたい能力・態度を明記し、単元の評価規準(ルーブリック)の中でそれがどのように測れるのかも意識して指導案を作成した。最終的には学習発表会の舞台においてその成果を発信し、振り返りを行った。授業については探究的な学びとして、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」の流れで行うこととした。また、生徒会、生徒委員会が意欲的にさまざまなESD推進活動に取り組んだ。

- ③総合的な学習の時間における3つの能力・態度の育成に照らした生徒の変容の把握

学習発表会後には3つの能力・態度に着目したアンケートを取り、各学年で考察を行った。1年生では顕著な伸びは見られなかった。2・3年生では「多角的・総合的に考える力」が大きく伸びたが、多くの活動においてグループ活動が主体となり、互いの意見を出し合いまとめる機会が多か

ったことや、様々な立場で考えることができたことによるものと考えられる。

### (3) PDCAサイクルへの取組について

検証改善サイクル実施のため、昨年度から事前調査として2・3年生には前年度3月に、1年生には4月に第1回の意識調査を実施し、その後、各学期末など計6回の調査を行った。その結果、1・2年生において、「地域の活動があれば参加したい」と考える生徒が大幅に増加した。このことから、地域に目を向けた取組を行った成果であると考えられる。また、今年度の全国学力・学習状況調査における「地域や社会で起こっている問題に関心がある」についての肯定的評価が60.6%（全国59.3%）となり、昨年度よりも26.8ポイントも伸びた。「身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えている」については、2年間で67%から80%に伸びるなど、3つの能力・態度の向上について成果が見られた。

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 【教科横断とSDGs】「総合的な学習の時間」を軸として教科等との関連性を可視化し、教科で学んだことを総合的な学習の時間の学びにも生かすという流れができ、3年間の系統性を生かした取組につながった。また、SDGsという大きな目標で捉えた活動にするとともに、各単元間の関連性やルーブリックを意識するなど、教職員の視野が広がった。
- 【生徒のESDへの意識の高まり】生徒会や生徒委員会が取組の軸としてSDGsを掲げ、ESDを進めることにより、生徒間でのESDへの意識が高まった。また、各学年や生徒委員会の成果発表についても、自分たちの学校、地域、世界の将来と結びつけて考え、活動を進めることによって学習内容や委員会活動が活性化している。
- 【地域・社会とのつながり】教員が先導して、生徒と地域の方々、事業所、市役所、民間企業等とつながり、生徒の活躍の様子を見ていただいたことで、双方向の関係を深めることができた。
- 【ESD大賞受賞】ESDの取組を発表したところ「ESD大賞 中学校賞」を受賞することができ、教職員、生徒、保護者、地域の方々の励みとなり、地域全体が活気づいた。
- 【ESDカレンダーの改善】ESDカレンダーについて、総合的な学習の時間を中心に、教科との関連をより可視化できるカレンダーに改善しなければならない。
- 【ESDのポートフォリオ評価】ルーブリック評価への認識は進んだが、生徒の学習の足跡を残し、評価に生かすポートフォリオ評価への取組については、学年間でばらつきが見られた。

## 4 今後の取組

- 各学年が目指す生徒像の下、3年間の系統性のある取組をより行うためにも、ESDカレンダーを活用し、総合的な学習の時間と各教科等とのつながりを見いだす。
- 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を意識し、総合的な学習の時間や各教科等で実践を行ったため、一定の効果が現れた。さらに、よりよい授業づくりを研究していく。
- 来年度は修学旅行先を長崎県へと変更する。ESDの視点を大切にしたい取組に深めるためにも平和について学ぶなど、今年度から計画的な取組を進め、よりグローバルな視野で物事を考え、世界に発信できる生徒の育成に努めたい。